

貝塚の自然探訪4 ドーソン石

川村 甚吉（貝塚市立自然遊学館）

大阪府は鉱物が少ないところだと言われていました。そう言われれば、鉱山や鉱山跡はないようにも思います。それらにはなくても、露頭や地中に存在していてもおかしくはありませんが、なかなか鉱物採集の話も聞きません。また、最近では山を切り通す工事や地下を掘る工事も少なくなってきました。加えて、防犯上の理由からでしょうか、その削られた斜面の地層や掘られた石や土を直接見る事の出来る機会も少なくなりました。だから、余計に大阪府には鉱物らしいものは少ないのだ、と判断してしまいそうです。しかし、研究家の間では大阪府にも鉱物の種類はかなりあるといわれています。確かに、研究して、鉱物を探せば、種類のにはかなり出てくることは考えられます。

そんな中で当市には、大阪府を代表する鉱物があり、それは日本的にも珍しいものであるといわれれば、少なからず驚いてしまいます。その名は「ドーソン石」です。

当市のアンモナイトについては「貝塚の自然1」で述べました。アンモナイトの化石が出る地層と関係があります。約7000万年前の白亜紀後期までに出来た和泉層群にそれらは存在するのです。それらとは言うまでもなく、アンモナイトとドーソン石のことであります。

中央構造線という言葉の時折聞く事があります。日本最大の断層で、関東から九州にまでつながっています。言い換えますと地震発生確率の高い地帯でもあります。その中央構造線の北側を内帯と言い、大阪府内では当市から岬町にかけての内帯が和泉層群であるようです。

当館の人気行事であります「化石採集」は蕎原地区の私有地をお借りして実施しています。講師の先生方の好意で安全で見つけやすく、しかもわかりやすい説明なので人気は高まるばかりです。参加者全員数個の化石を採集されています。その化石の周りや、ノジュールという堅い石の周りにもドーソン石がついているのです。ルーペで見ますと白い光沢のある放射針状の結晶が見られます。



和泉層群 化石採集地



左の拡大

上で大阪府を代表すると記述しました。産経新聞のトピックス「鉱物の故郷16」では筆者の益富地学会館主任研究員であります藤原卓氏は次のように述べられています。

ドーソン石はナトリウムとアルミニウムが主成分の炭酸塩鉱物で、国内での産出は稀である。しかし、アンモナイトなどの化石が産出することで有名な大阪府南部の和泉山地に沿って東西に分布する白亜紀後期の和泉層群畦谷泥岩層からは普通に産出する。



ドーソン石



左の拡大

実はドーソン石が最初に発見されたのがこの地域で・・・大阪府を代表する鉱物の名に恥じない。と。(当市の蕎原も畦谷も同じ和泉層群内である)